

2012年世銀・IMF総会に向けた第1回NGO会合発表資料：
世界銀行・IMFの概要と課題

2011年10月7日

「環境・持続社会」研究センター（JACSES）

田辺 有輝

世界銀行・IMFの役割

世界銀行グループ

- 設立: 1945年 (IBRD)、1960年 (IDA)、1956年 (IFC)
- 目的: 戦後復興 → 経済発展 → 貧困削減
- 加盟国数: 187カ国 (IBRD)、170カ国 (IDA)、183カ国 (IFC)
- 規模 (融資残高): 1201億ドル (IBRD)、1135億ドル (IDA)、299億ドル (IFC)

国際通貨基金 (IMF)

- 設立: 1945年
- 目的・役割: 通貨の安定 (短期貸付、監督・助言、技術支援)
- 加盟国数: 187カ国

参考: 国際協力機構 (JICA) の融資残高は約11兆円、国際協力銀行 (JBIC) の融資残高は9兆円。

世界銀行・IMFの資金調達と意思決定

世界銀行グループ

- IBRDやIFC(出資金+市場での債券発行等)、IDA(3年ごとに出資金を増資)
- 日本は米に次いで第2位の出資国。出資比率は8.1%(IBRD)、19.4%(IDA)、6.0%(IFC)。
- 最高意思決定機関は総務会(総会)だが、実質的な政策決定や案件承認は理事会(25人の理事)。投票権は出資比率に比例。

国際通貨基金(IMF)

- 各国からの出資(1300億ドル相当の金も保有)。
- 日本は米に次いで第2位の出資国。出資比率は6.5%(クォータ改革により6.1%へ)。
- 最高意思決定機関は総務会だが、実質的な政策決定は理事会(24人の理事)。投票権は出資比率に比例。

政策決定に影響を与えたいNGOは各国理事、財務省に働きかける。

世界銀行・IMFの業務・資金使途

世界銀行グループ

- IBRD・IDAのセクター別融資割合：保険教育20%、行政18%、エネルギー17%、金融16%、運輸15%等。IFCの約半分は金融セクター。
- 地球環境ファシリティ(GEF)や気候投資基金(CIF)などの信託基金も。

国際通貨基金(IMF)

- 2010年の主要貸出先としては、メキシコ、ギリシャ、アイルランド、ポーランド等。
- 2010年の低所得国向けの主要貸出としてはケニア、イエメン、アルメニア、ベニン等。

なぜ世銀・IMFを使うか？：①高い専門性による技術協力、②資金の呼び水効果、③政策対話を通じた改革機会(当該国も出資国であるという正当性)等に期待。

世銀・IMFに対するNGOの批判

- 環境・社会配慮: 融資先の開発事業における自然環境への影響、住民移転の影響、先住民族や文化遺産への影響、気候変動への影響が十分配慮されていない。
- 汚職・腐敗: 大規模な採掘事業やインフラ事業等で、汚職・腐敗を助長。
- 貧困層・脆弱層の保護: 融資条件として、予算削減・輸出産業保護・民営化等が行われる結果、失業者の増大、中小企業の衰退、教育・医療サービス削減などが深刻化。
- 国際的なガバナンス: 非民主的な意思決定方法、気候変動交渉を巡る主導権争い。

世界銀行・IMFにおける最近の議論(1)

- 成果連動型プログラム融資制度 (Program for Results) への環境社会配慮の欠如・開発効果の有効性に関する懸念。世銀は新たな融資スキームを次々に展開(審査プロセスからの解放要求?)。
- エネルギー政策改訂における石炭関連事業撤退の是非。世銀理事会が第2のCOPになりつつある。
- セーフガード(環境社会配慮)政策・異議申し立て制度改訂における基準低下の懸念。世銀基準は国際的なベンチマーク。
- 金融取引税 (FTT) の導入の是非。

世界銀行・IMFにおける最近の議論(2)

環境・社会問題が指摘されている案件

- ナムトゥン2水力発電事業(ラオス)
- ウィルマートレーディング(インドネシア)
- ランコ・アマルカルタック火力発電所(インド)
- GMRカマランガ石炭火力発電所(インド)
- タウンサ堰改修事業(パキスタン)
- 左岸排水事業(パキスタン)
- バクー・トウビリシ・ジェイハンパイプライン
- チャド・カメルーン石油パイプライン
- ブジュガリ水力発電事業(ウガンダ)
- BERTIN LTDA(ブラジル)